

マンガで読む

コスモス
国際賞

International Cosmos Prize

Dr. Peter Bellwood

ピーター・ベルウッド博士

人類の旅路をたどって

公益財団法人

国際花と緑の博覧会記念協会

マンガで読む

コスモス
国際賞



International Cosmos Prize ——— Dr. Peter Bellwood

ピーター・ベルウッド博士

人類の旅路をたどって

公益財団法人
国際花と緑の博覧会記念協会



考古学者
ピーター・ベルウッド博士

博士は
アジア太平洋地域で
数十年にわたり
考古学の研究を
行っています

さらに考古学を
言語学や*自然人類学と
結びつけ世界各地の
人類の過去に対する
研究を行い

「農耕の起源」と
「初期農耕民が
世界各地にどのように
拡散していったか」を
明らかにしたのです

*自然人類学：ヒト科の共通祖先からどのように現生人類が進化してきたのかを解明する学問。
主に発掘された霊長類や人類の化石を研究し、その形態を分析する。

ベルウッド博士は
1943年
英国中部の都市
レスターに
生まれました

幼少期のベルウッド博士

一人っ子の
ベルウッド博士は
働き者の両親との
3人家族
近くには祖父母や
おじ、おば、いとこも
住んでいました



これから
私たちが
住む家だ！

ベルウッド博士が
7歳の時に
レスターにほど近い
シストンという村に
移り住みました

200年近く前に
建てられたん
ですって

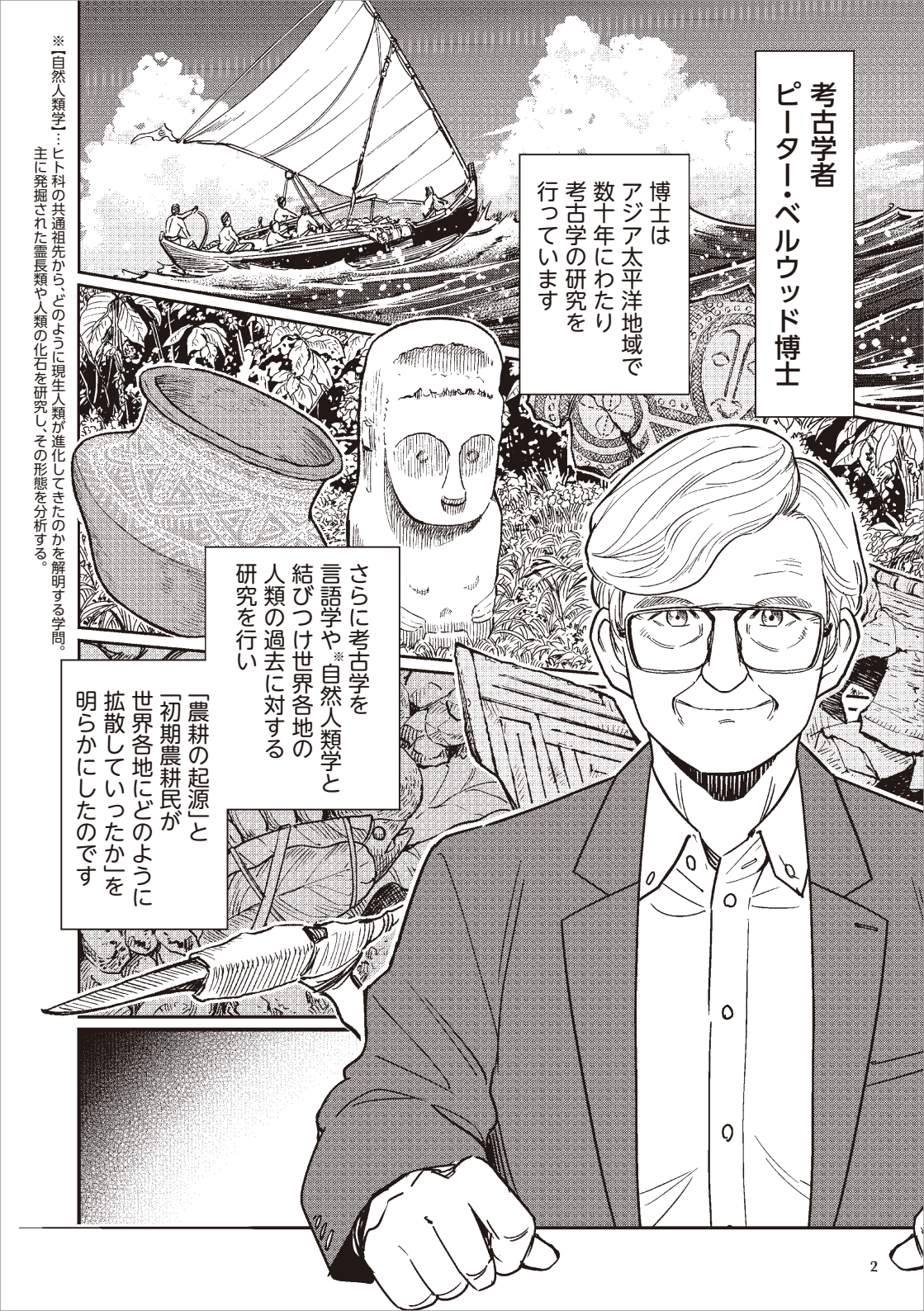
古くて
素敵だね！

ボーイ
見に行こう！

博士はこの家で
少年期を
過ごしたのです



あっちに
庭がある！



ベルウッド博士
11歳のころ



ピーター!

あなた試験に
合格ですって!

ホント!?



ピーター

お前は
朝から晩まで
学んでばかりだな

父さん
それ
褒めてるの?

もちろんだ!



もっと
勉強したいなら
父さんがしっかり
支えるからな!

しかし
ベルウッド博士が
15歳の時
とても悲しいことが
起こりました

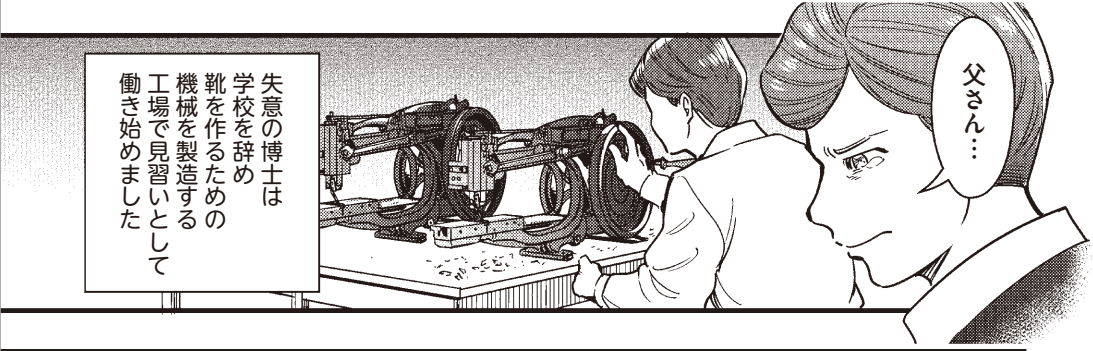
父が
亡くなったのです



博士は公立進学校
「グラマー・スクール」の
入学試験に合格しました

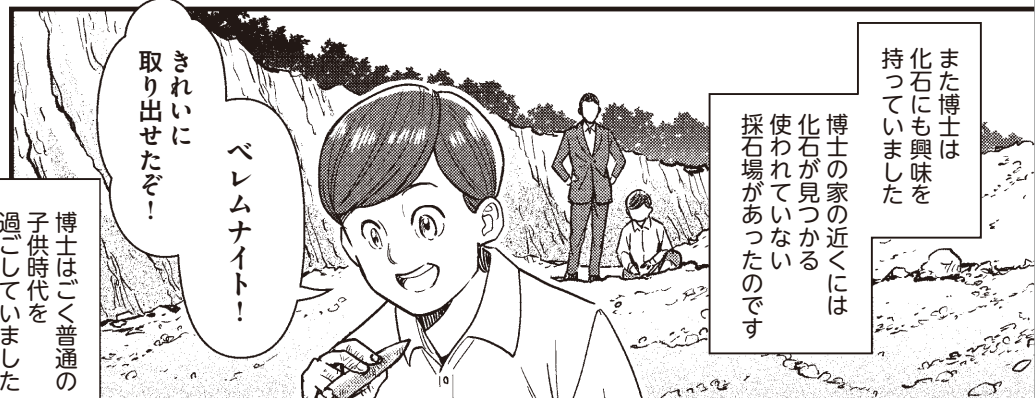


進学した博士は
毎日
蒸気機関車で
通学しました
蒸気機関車の
車両番号を
記録することが
この頃の趣味でした



父さん...

失意の博士は
学校を辞め
靴を作るための
機械を製造する
工場で見習いとして
働き始めました



また博士は
化石にも興味を
持っていました

博士の家の近くには
化石が見つかる
使われていない
採石場があったのです

ベレムナイト!

きれいに
取り出せたぞ!

博士はごく普通の
子供時代を
過ごしていました



P.E. クリーター著

『The Past in Pieces
(過去のかけら)』...

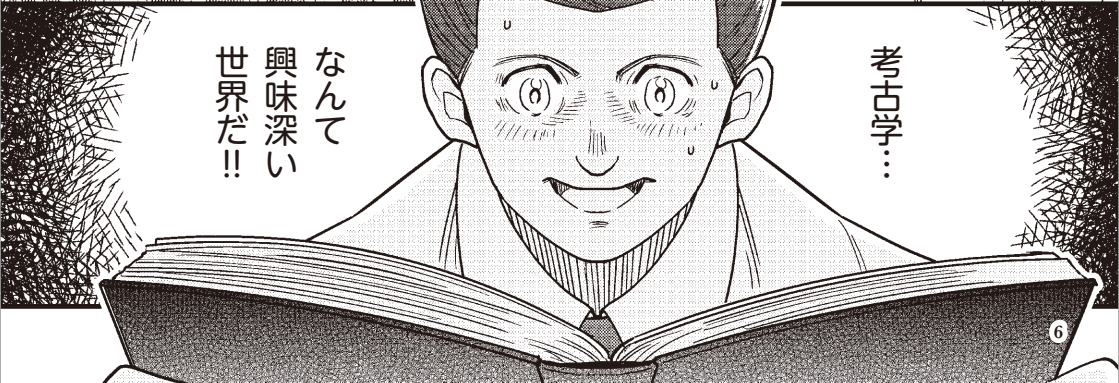
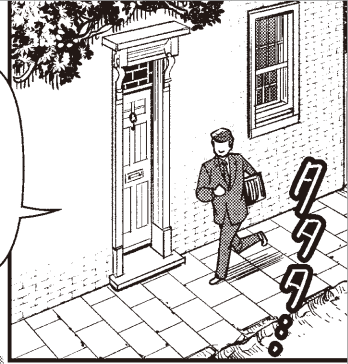
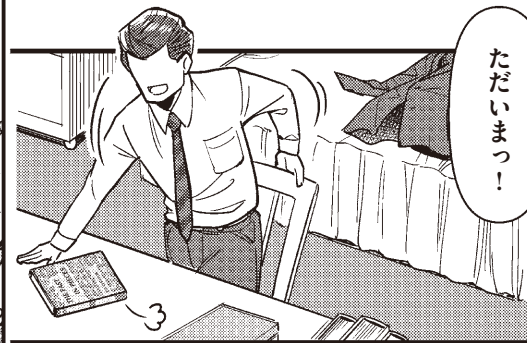
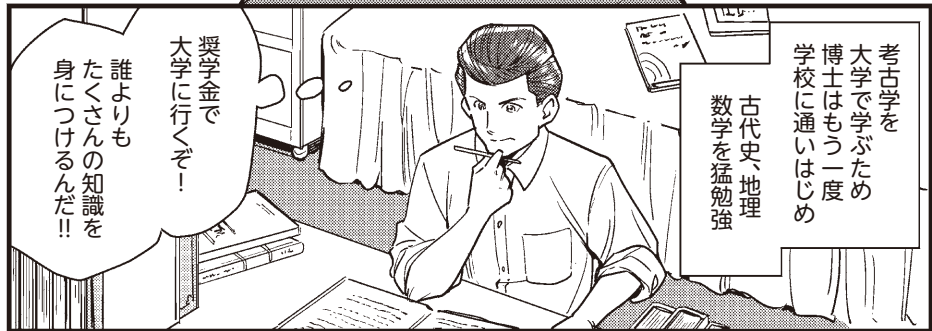
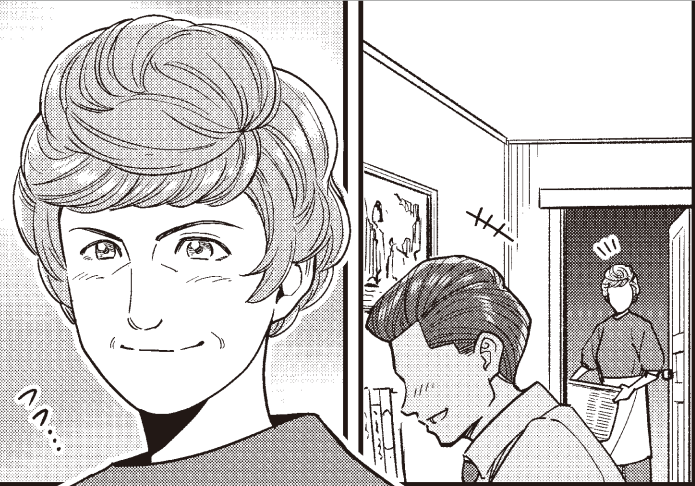
THE PAST
IN PIECES

P.E. CLEATOR

時は流れ
ベルウッド博士
17歳の頃
悲しみが
癒え始めた博士は
時間をみつけて
村の小さな図書館に
通うように
なっていました

ベルウッド博士の
考古学を学びたい
という気持ちは
次第に強くなり

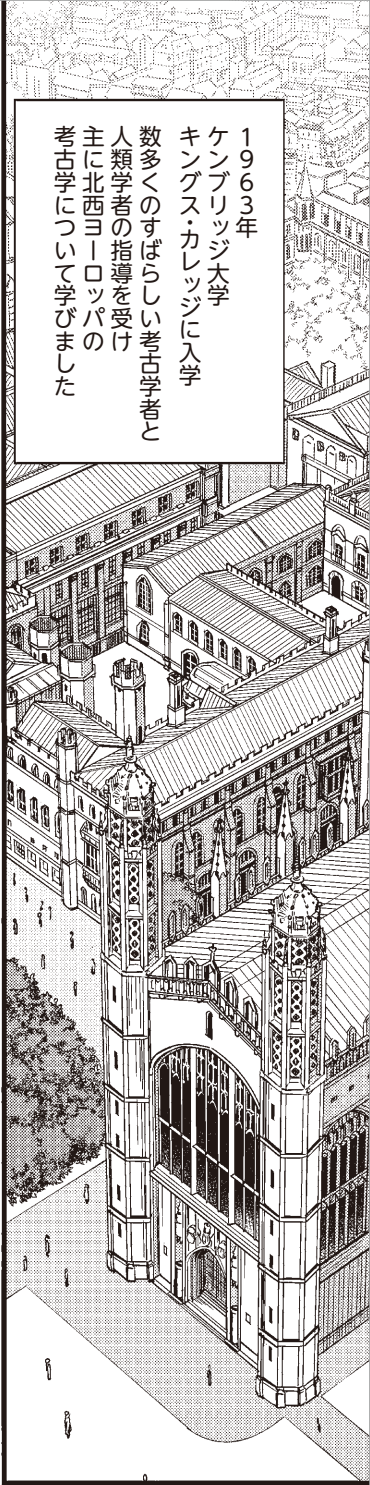
母もそれを
とても応援して
くれました



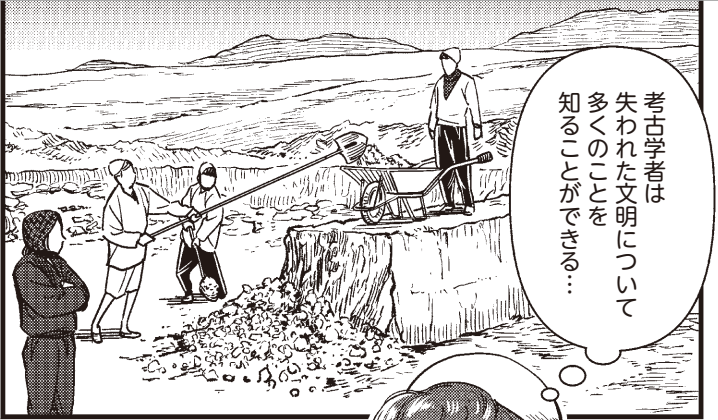
1963年
ケンブリッジ大学
キングスカレッジに入学
数多くのすばらしい考古学者と
人類学者の指導を受け
主に北西ヨーロッパの
考古学について学びました



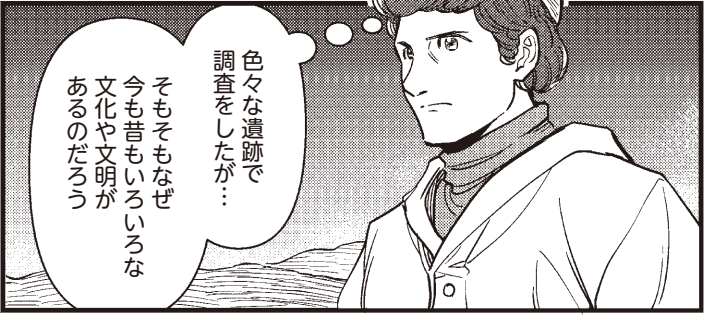
優秀な成績を
修めた
ベルウッド博士は
1966年
さらに学びを
深めるため
ケンブリッジ大学
大学院に進学



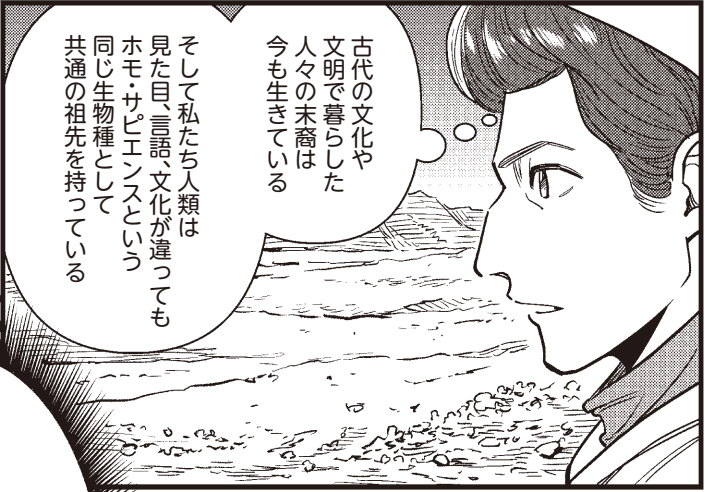
1963年から
1966年にかけて
博士は考古学の
研修の一環として
国内外の多くの
発掘調査に
参加しました
中でも
1966年
イランでの調査は
長期の滞在となり
重要な経験になりました



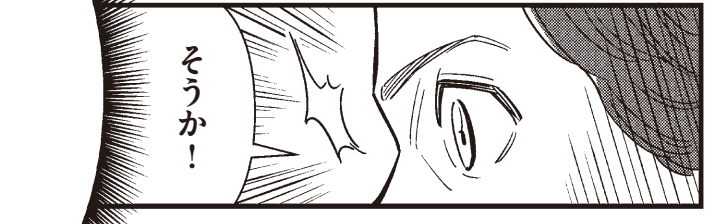
考古学者は
失われた文明について
多くのことを
知ることができる…



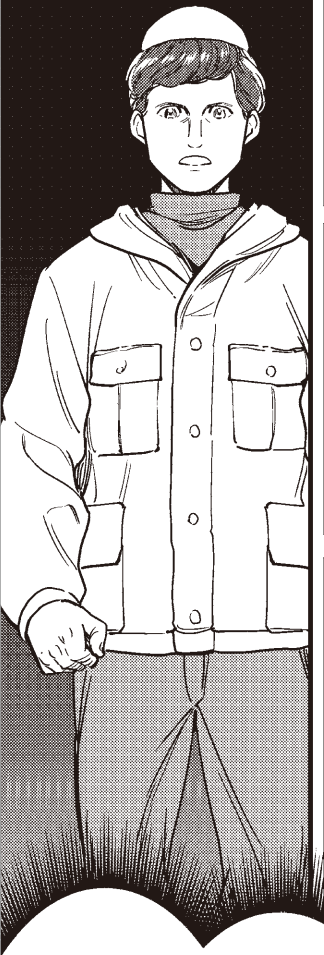
色々な遺跡で
調査をしたが…
そもそもなぜ
今も昔もいろいろな
文化や文明が
あるのだろう



古代の文化や
文明で暮らした
人々の末裔は
今も生きている
そして私たち人類は
見た目、言語、文化が違って
ホモ・サピエンスという
同じ生物種として
共通の祖先を持っている



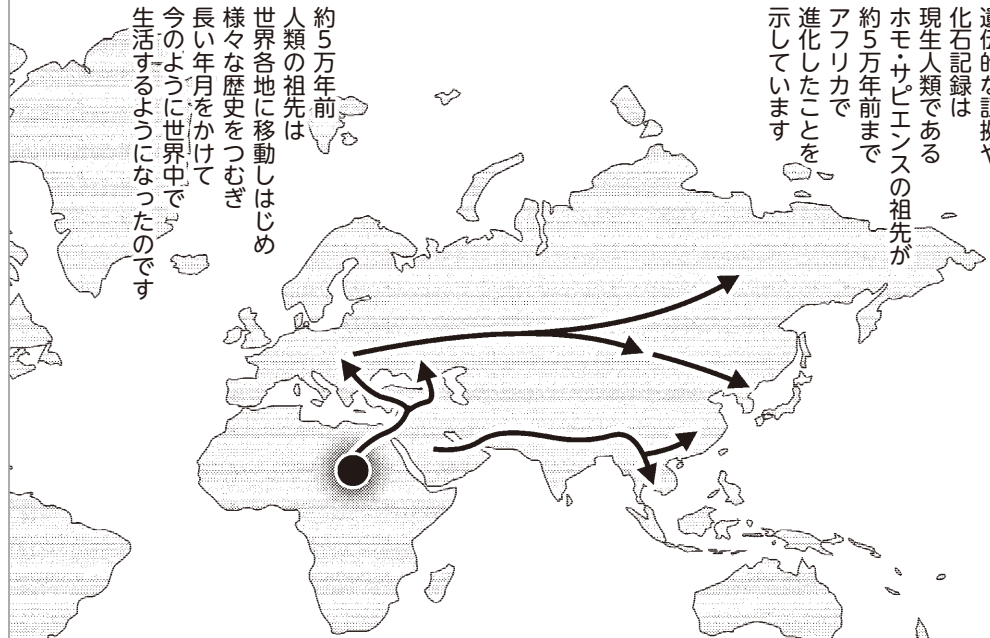
そうか！



僕が好奇心を
そそられるのは
人類そのものの
歴史なんだ!!

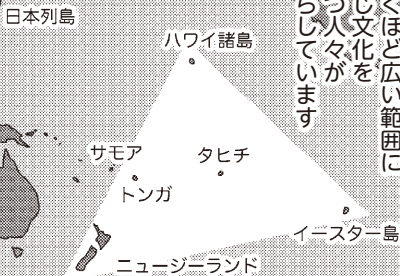
人類の起源：

遺伝的な証拠や化石記録は現生人類であるホモ・サピエンスの祖先が約5万年前までアフリカで進化したことを示しています



約5万年前人類の祖先は世界各地に移動しはじめ様々な歴史をつむぎ長い年月をかけて今のように世界中で生活するようになったのです

ポリネシアとは太平洋のポリネシア・トライアングルという地域にあるたくさんの島を指す言葉です
この地域には驚くほど広い範囲に同じ文化を持つ人々が暮らしています



ポリネシア人はおそらく人類の先史時代にアフリカから最も遠くまで移動した集団だ

広大な太平洋を一体どうやって…?

：僕が知りたい世界は

これかもしれない！

博士の興味はポリネシアへと向かっていきました

ベルウッド博士は遠い過去の人類の移動やそれぞれの集団の特徴に関心を寄せるようになったのです

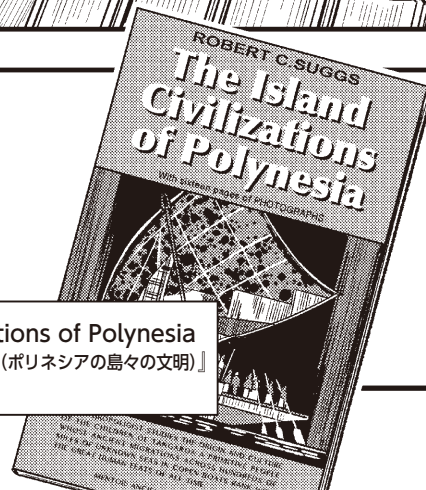
それぞれの集団を特徴付けるものは何だろう

またどのように移動したのだろうか…?

ニュージーランドのオークランド大学で考古学講師の職を得た博士は

1967年1月
はるか遠い土地へと旅立ちました

はるか昔にポリネシアに向かったのはどんな人々だったのだろうか…



『The Island Civilizations of Polynesia (ポリネシアの島々の文明)』
ロバート・サグス著

イランから帰国後博士は1冊の本に出会いました

1967年
ベルウッド博士23歳

博士と研究チームは
太平洋のマルキーズ諸島
クック諸島、
ニュージーランドの遺跡の
調査に取り組んでいました



フランス領ポリネシア
マルキーズ諸島

※岩陰遺跡の発掘調査



「ヨシッ！
ポリネシアの
神であるテイキの像が
最初に生まれたのは
マルキーズ諸島
でしたね？」

「そうですね
私が住んでいる
ハワイや
太平洋沿岸の
あちこちでも
見つかっています」

「人々の移住に
ともなって
広まったと
考えられています」

「彼らが書いた
記録があれば
読みたかったです」

「ポリネシア文化に
文字はありません
からね」

※岩陰…風や雨を避けることができたため、旧石器時代や新石器時代の人類の居住や墓域としての
利用に適していた。当時の人々の生活の痕跡が見つかる可能性がある。



ビショップ博物館 考古学者
しのとおよしひこ
篠遠喜彦(ドクター・シノト)

歴史は
長老たちの口伝えで
受け継がれてきました



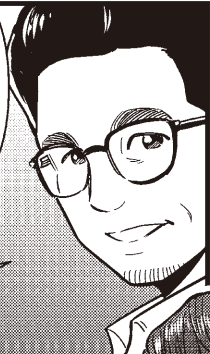
フランス語や
英語を話す一方で
今でも多くの
ポリネシアの人々が
先祖代々の言語を使い
伝統を守り続けています

「遠い祖先の
文化や言語を
今も受け継いでいる…
すばらしいですね！」

「はい！
ただ…それを
続けていくのは
段々と難しくなって
いくでしょう」

「長老が
亡くなったたり
母語を学ばない
人が増えたり…」

「彼らの文化を
守るため
私にできる
ことはないか
考えています」

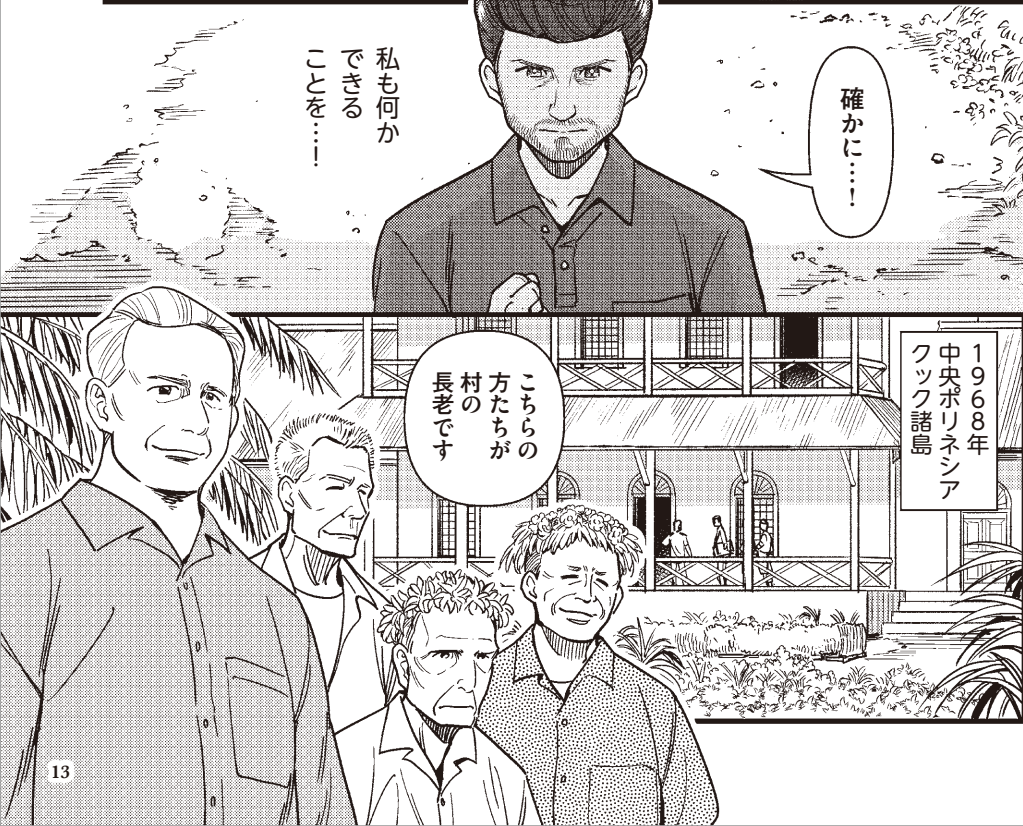


「確かに…！」

「私も何か
できる
ことを…！」

「こちらの
方たちが
村の
長老です」

1968年
中央ポリネシア
クック諸島





ベルウッド博士には
同じ考えを持つ
仲間がいました

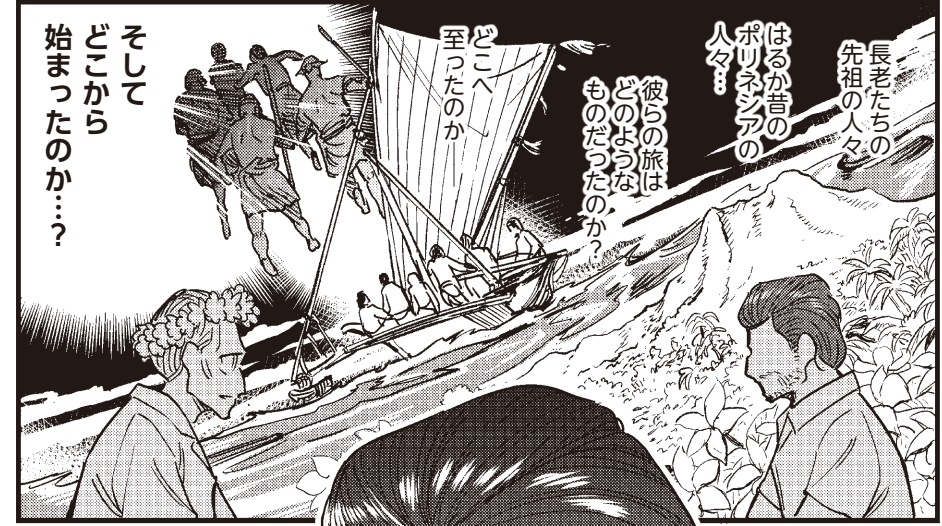
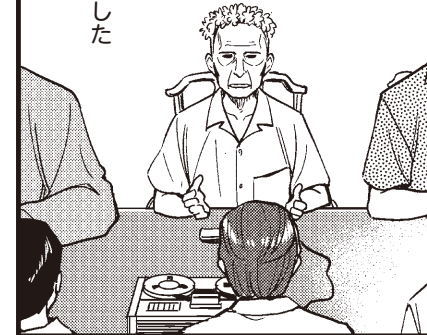
考古学や言語学
自然人類学の
研究を
組み合わせる…

興味
深いな！

みなさま
クック諸島では
ポリネシア文化が
驚くほど
守られています
どうか
代々伝えられてきた
物語を教えてください

カチツ

博士たちは
毎日の発掘を
終えた後
未来の
ポリネシアの
人々のために
長老たちが語る
歴史の記録を始めました



長老たちの
先祖の人々
はるか昔の
ポリネシアの
人々…

彼らの旅は
どのような
ものだったのか？

どこへ
至ったのか

そして
どこから
始まったのか…？



そのことは
言語学の手法で
「魚」や「カヌー」のように
共通して使われている
言葉と意味を比較すると
わかるんだ

オークランド大学 言語学者
アンドリュー・ポウリー



ポリネシアでは
海によって
広大な距離を
隔てられていても
関連する言語が
話されている

それらの言語は
何千年も前の
台湾に起源を
たどることが
できる

これは
本当に
驚くべき
ことだ！

ハワイ大学 言語学者
ロバート・ブラスト



確信が
持てた！
多種多様な分野の
情報を集めて
調査することが
人類の過去について
理解する
唯一の方法に
違いないんだ！

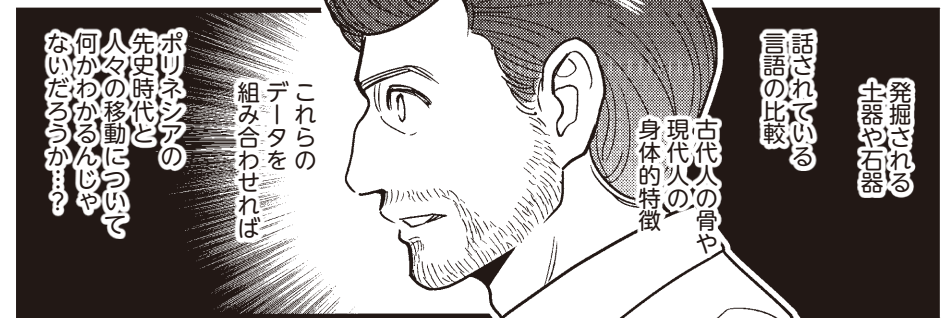


私は
島々で見つかる
出土品が
重要だと思っ
てる

古い時代まで
さかのぼって
研究することが
できるもの…

そう、
ラピタ石器
などだね

ハワイ大学 考古学者
ロジャー・グリーン



発掘される
石器や石器
話されている
言語の比較

古代人の骨や
現代人の
身体的特徴

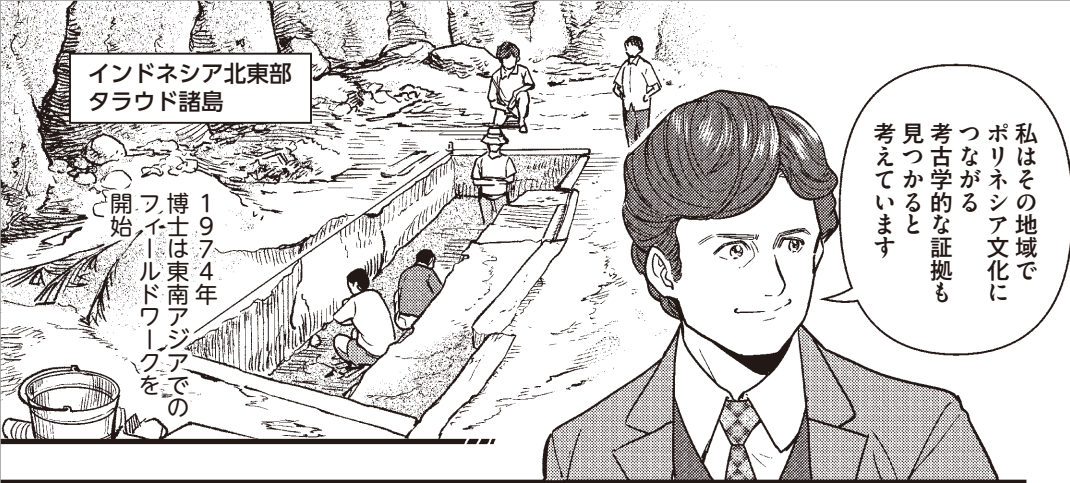
これらの
データを
組み合わせれば

ポリネシアの
先史時代と
人々の移動について
何がわかるんじや
ないだろうか？

インドネシア北東部
タラウド諸島

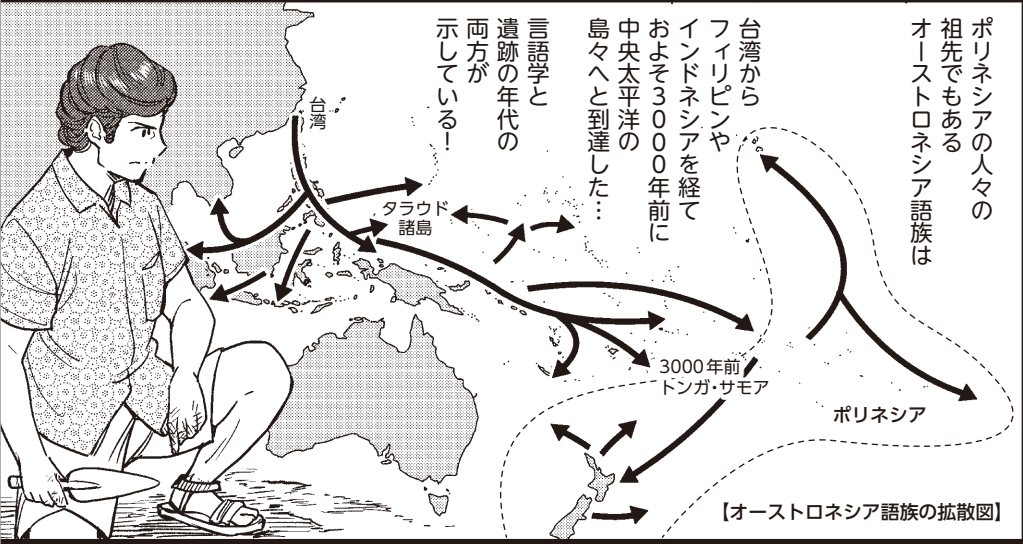
1974年
博士は東南アジアでの
フィールドワークを
開始

私はその地域で
ポリネシア文化に
つながる
考古学的な証拠も
見つかるかと
考えています



ポリネシアの人々の
祖先でもある
オーストロネシア語族は
台湾から
フィリピンや
インドネシアを経て
およそ3000年前に
中央太平洋の
島々へと到達した…

言語学と
遺跡の年代の
両方が
示している！



【オーストロネシア語族の拡散図】

赤色スリッ
土器だ！
だが太平洋の
島々で見つかる
「ラピタ土器」
のような
模様はない…

考古学者
イ・マデ・スタヤサ



南太平洋の遙か彼方から
やってきた
ポリネシアの人々…

私は
考古学者として
遺跡を発掘し
彼らの足跡を
辿っていく！

ベルウッド博士の興味は
ポリネシア人が属する
「オーストロネシア語族」へと
広がっていききました



またこの頃ロンドンで
出版社の代理人として
働いていた親戚の勧めで
博士は国際的な出版社と
契約を結び

のちに
「太平洋」と

「ポリネシア人」の
2冊を出版



※どちらも日本語版が出版されている

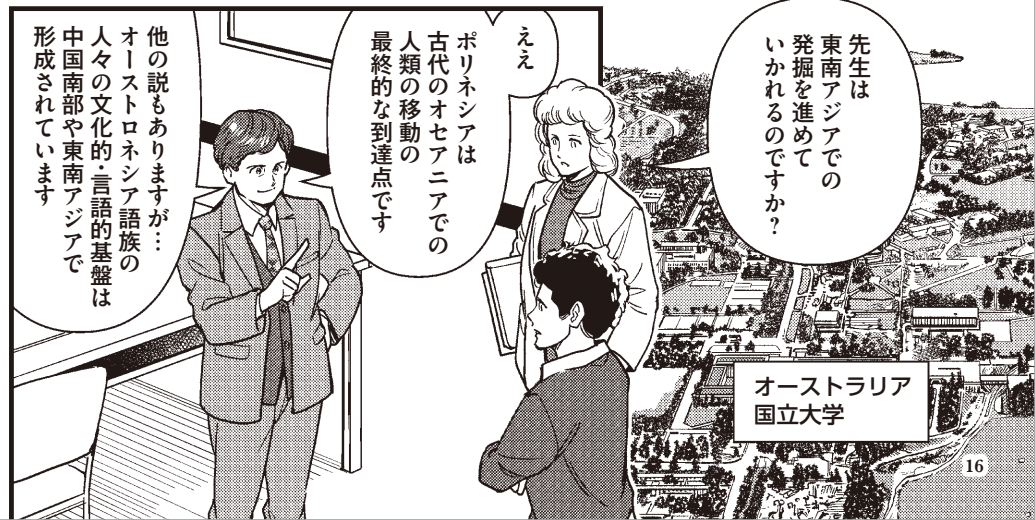
1973年には
オーストラリア国立大学の
考古学講師となりました

他の説もありますが…
オーストロネシア語族の
人々の文化的・言語的基盤は
中国南部や東南アジアで
形成されています

ポリネシアは
古代のオセアニアでの
人類の移動の
最終的な到達点です

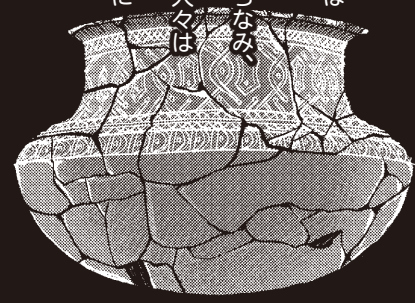
先生は
東南アジアでの
発掘を進めて
いられるのですか？

オーストラリア
国立大学



土器は
文明の特徴を表し、
保存状態も良いため
考古学において、
特に重要です。

「ラピタ土器」は
幾何学模様が
特徴の土器で、
土器の名前にちなみ
同じ様式の
土器を作った人々は
「ラピタ人」と
呼ばれるように
なりました。

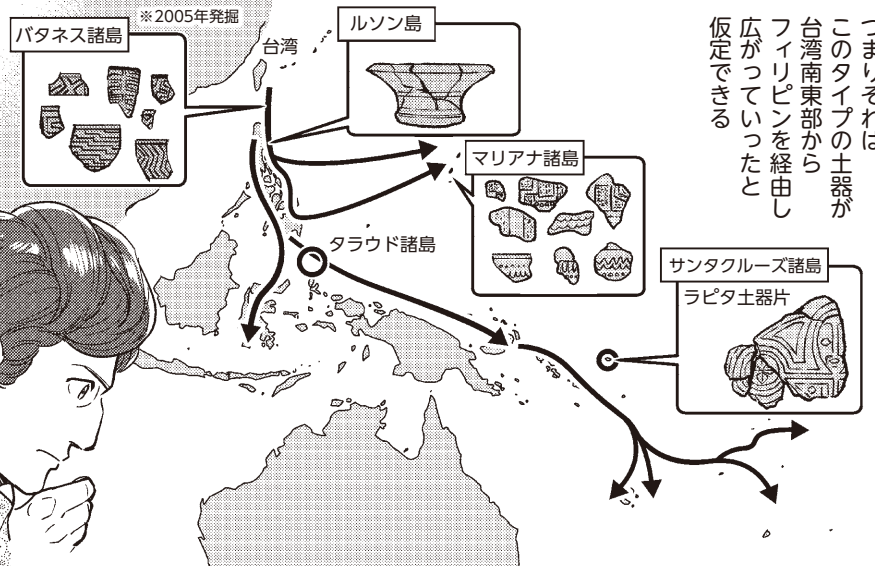


ラピタ人は
ポリネシア人など
太平洋の島々に渡った
人々の先祖だと
考えられました。

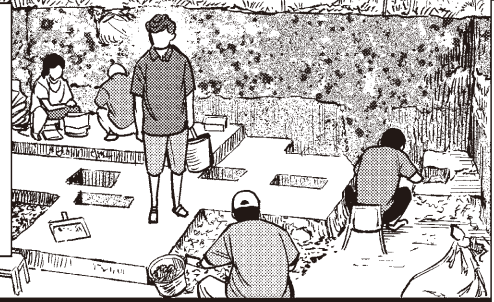
ここ、
タラウド諸島の
赤色スリップ土器は
ラピタ土器と色は
似ているな



赤色スリップ土器は
台湾でも発掘されている
つまりそれは
このタイプの土器が
台湾南東部から
フィリピンを経由し
広がっていったと
仮定できる



その後
ラピタ文化に繋がる土器が
フィリピン・ルソン島の
ラロ貝塚遺跡群で発見され
年代が特定されました



これらの発見は
ラピタ土器の伝統と
それに近い様式が
東南アジアに
起源を持つことを示す
明確な考古学的
証拠となり

ベルウッド博士の
仮説をさらに
裏付けるものと
なりました

ベルウッド博士は
オーストロネシア語族の
人々に関する理論を
構築し始めました

オーストロネシア
語族の
人々の祖先は
中国南部や
東南アジアに
住んでいたと
考えられますが…

古代の人々は
どうやって
長距離の移動を
実現できたの
でしょうか？



それについて
私は大きく分けて
二つの理由が
あると思うんだ

第一に

優れた航海術と
素晴らしい舟を作る
技術を持っていた

それによって
太平洋に点在する
無数の島々を発見し
定住することができた

第二に

移住した島で
作物を栽培し
家畜を飼育する
ことができた

それによって
限られた
自然資源しかない
小さな島々でも
生活していく
ことができた

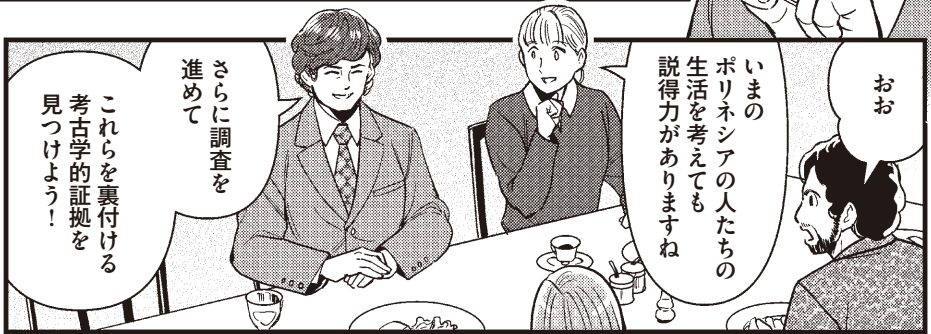


おお

いまの
ポリネシアの人たちの
生活を考えても
説得力がありますね

さらに調査を
進めて

これらを裏付ける
考古学的証拠を
見つけよう！



1987年
ベルウッド博士は
注目すべき
発見をじました

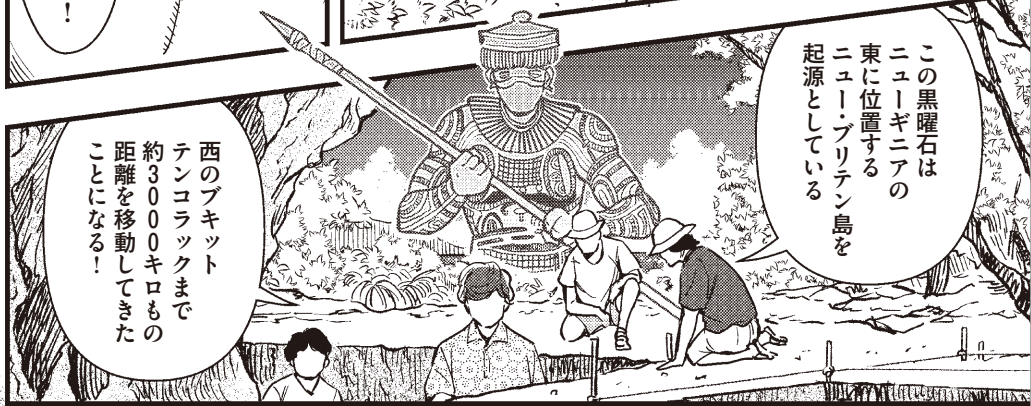


西マレーシア
サバ(ボルネオ島北部)
ブキットテンコラック遺跡



※黒曜石...割ると非常に鋭い刃物になり、道具や武器として使われていた。

この黒曜石は
ニューギニアの
東に位置する
ニュープリテン島を
起源としている



これは単なる
一片の黒曜石以上の
意味を持っている!

約3500年から
3000年前の
ラビタ人や
東南アジアの集落が
海上ネットワークで
結ばれていたと
いうことだ

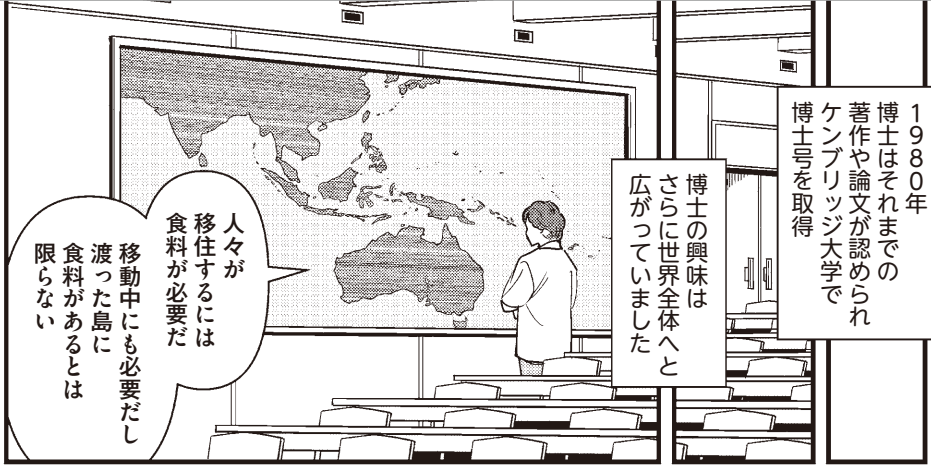
古代の人々は
ただ海を渡った先で
暮らしていたわけでは
なかった!
海を渡り、交流し、
物や知識が行き交う
大きく豊かな
社会があったんだ!



1980年
博士はそれまでの
著作や論文が認められ
ケンブリッジ大学で
博士号を取得

博士の興味は
さらに世界全体へと
広がっていました

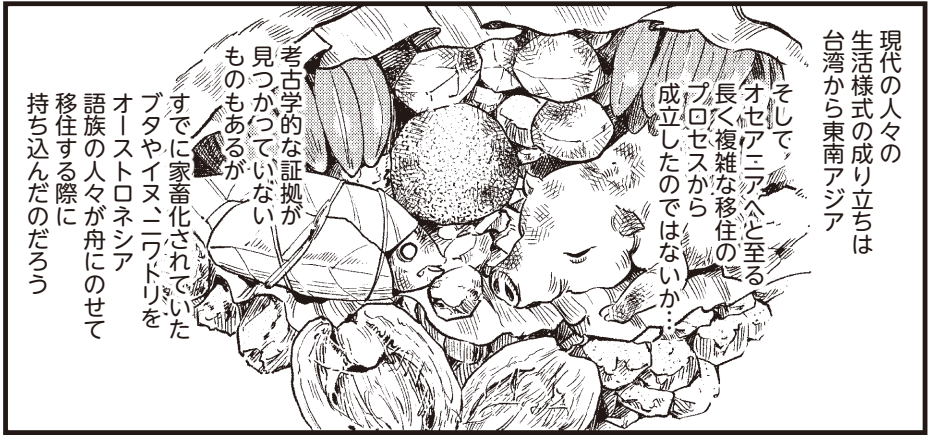
人々が
移住するには
食料が必要だ
移動中にも必要だし
渡った島に
食料があるとは
限らない



現代の人々の
生活様式の成り立ちは
台湾から東南アジア

そして、
オセアニアへと至る
長く複雑な移住の
プロセスから
成立したのではないか

考古学的な証拠が
見つからない
ものもあるが
すでに家畜化されていた
ブタやイヌ、ワトリを
オーストロネシア
語族の人々が舟にのせて
移住する際に
持ち込んだのだろう



また太平洋の島々で
栽培しやすい
ヤムイモ、タロイモ
そしてココナツ
バナナなどの果物も
移住の際に
持ち込まれたに違いない

一方、水や土に限りがある島で栽培しにくい米やキビなどの穀物は持ち込まれなかった※



※例外としてマリアナ諸島では古代の稲作の痕跡が発見されている。

2004年
ベトナムでの
遺跡の発掘調査と
同時に
一冊の本の
執筆を始めました



こうした世界的な
視野での研究の一方で
考古学的な調査も継続
当時としては
東インドネシアで
最古のブタ家畜の
痕跡を発見したのです

北マルク諸島
ウアットムディ遺跡

そして
翌2005年
書籍を出版
「初期農耕拡散仮説に
関する自分の考えを
世界中に広めました

「初期農耕拡散仮説」
農耕の広がりには
農耕の技術だけが
伝えられたのではなく
農耕民の移動をともなっ
ておこったといっ
考えのもと
考古学、言語学、
自然人類学の
学際的研究成果により
世界各地の
人類の拡散を
理論立てて
まとめあげよっ
したのです



First Farmers
(農耕起源の人類史)

移住の理由は
食糧生産の
結果による
人口増加によつて
起こったのでは
ないか？

この研究は
オーストロネシア
語族だけでなく

世界中の
語族の研究にも
応用できるかも
もしれない……！



1986年
ベルウッド博士は
英国での学会で
懐かしい顔と
再会しました

コリン
久しぶりだ！

ピーター！

キミの
オーストロネシア研究
ずっと追っているけど
本当に素晴らしいよ

考古学者
コリン・レンフルー



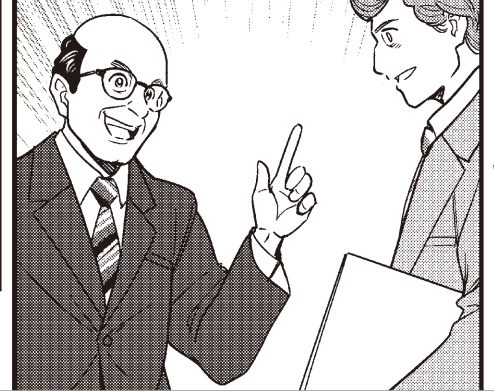
君も知るように
私もインド・
ヨーロッパ
語族について
同じような結論に
至ったんだ

ええ！
食糧生産と
人の移住は
密接に
関わっている

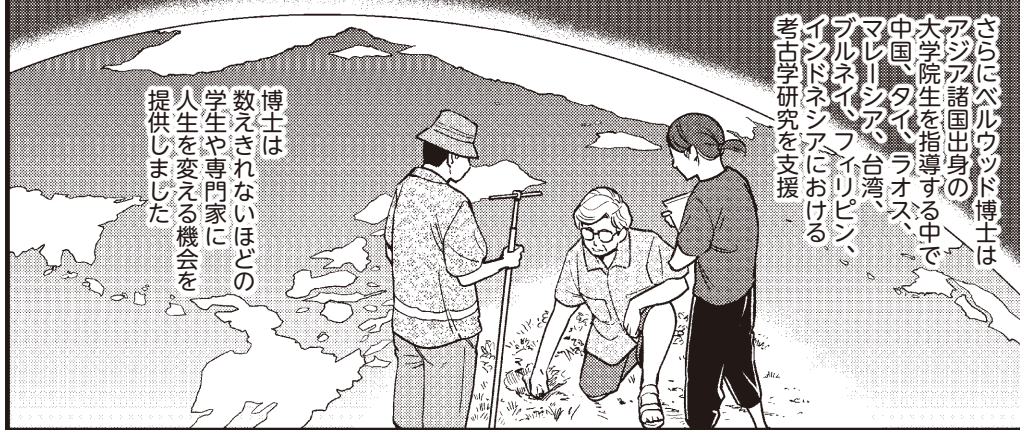
これは
世界の他の農耕や
牧畜を行う集団で
同じような関係が
あるにちがいない！

1987年
レンフルー博士は
著書「考古学と言語学」を
出版しました

ベルウッド博士もまた
会議の開催や
論文の発表を行い
他の主要な語族や
初期農耕民にも
適用していきました



さらにベルウッド博士は
アジア諸国出身の
大学院生を指導する中で
中国、タイ、ラオス、
マレーシア、台湾、
ブルネイ、フィリピン、
インドネシアにおける
考古学研究を支援



博士は
数えきれないほどの
学生や専門家に
人生を変える機会を
提供しました

深いトレンチを
掘り進める苦勞
特別なものが
見つかることを
ひたすら
願いながらの作業
細かな
ふるい分け作業
発掘現場の
埃と暑さ
逆に蒸し暑さ
地元の
労働者たち
大学院生
多くの同僚や
教師たちのこと
私はいつまでも
覚えている
ことだろう…

2013年
70歳となった
ベルウッド博士は
大学を退官し
名誉教授となりました



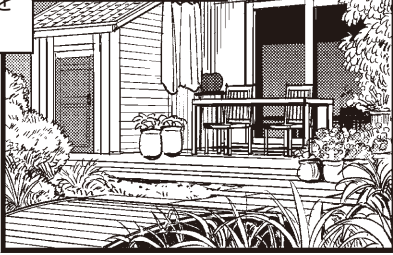
退官後も
多くの調査や
書籍の出版

そして
アジア太平洋地域の
考古学の発展に
つくっています

2021年
6月18日

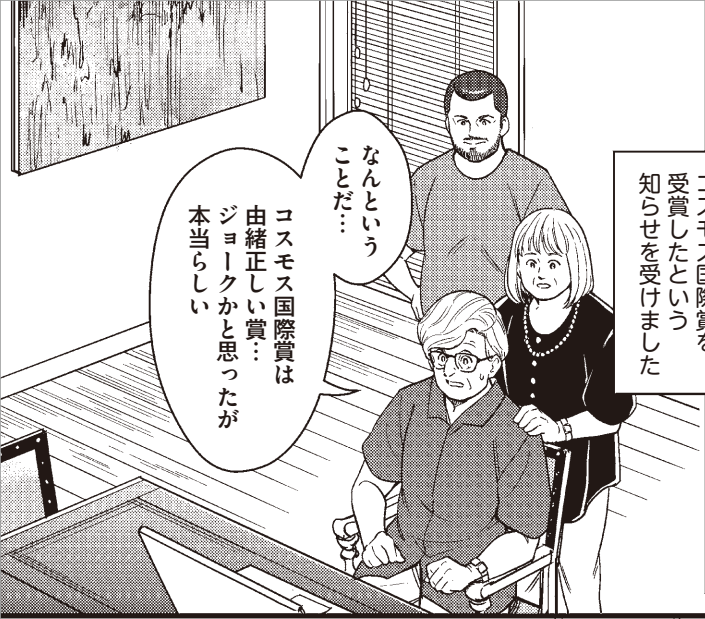
人類の移動と
農耕の拡散を
世界的な視野で
探求してきたことが
評価され

コスモス国際賞を
受賞したという
知らせを受けました



なんと
いう
ことだ…

コスモス国際賞は
由緒正しい賞…
ジョークかと思ったが
本当らしい



人類は
食糧生産によって
地球環境に
大きな影響を
与えてきた

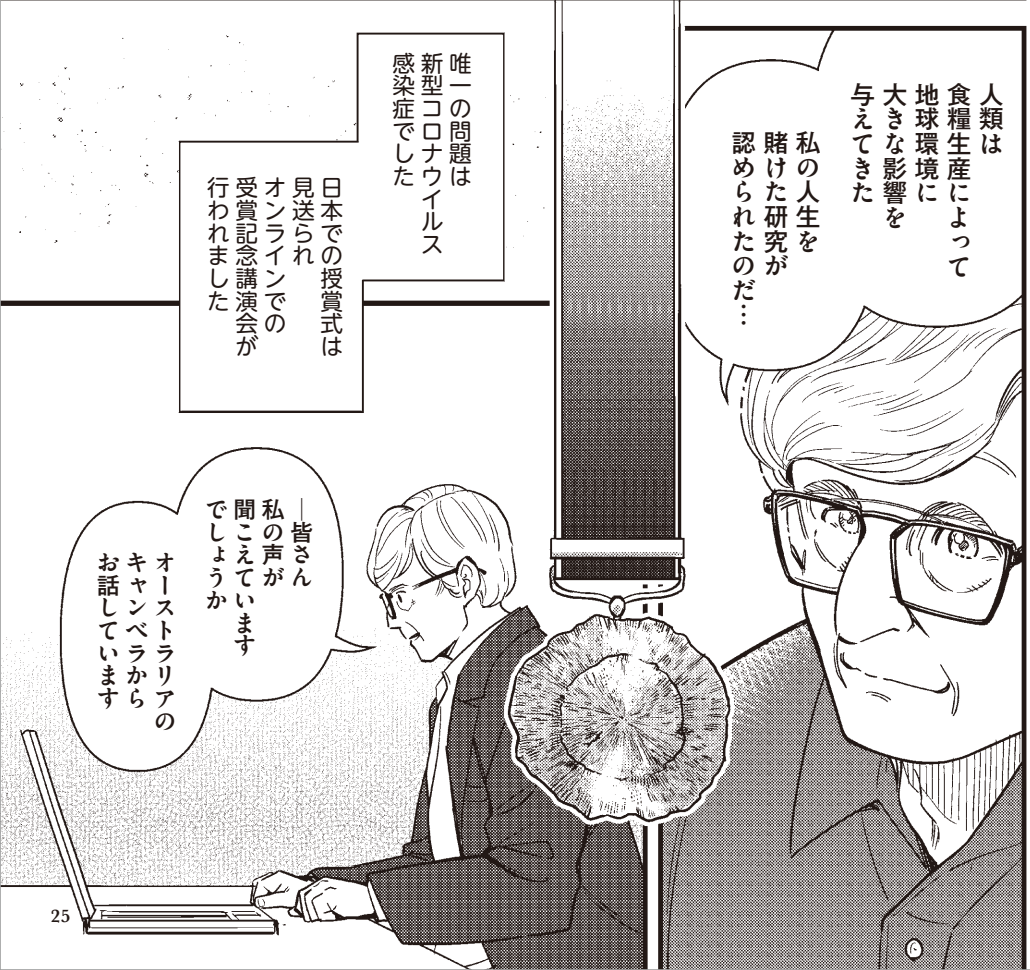
私の人生を
賭けた研究が
認められたのだ…

唯一の問題は
新型コロナウイルス
感染症でした

日本での授賞式は
見送られ
オンラインでの
受賞記念講演会が
行われました

—皆さん
私の声が
聞こえています
でしょうか

オーストラリアの
キャンベラから
お話しています



人間は自然から切り離されて存在することはできません

人類のこれからの理解するには

約500万年にわたるヒト属の進化の歴史全体を振り返る必要があります

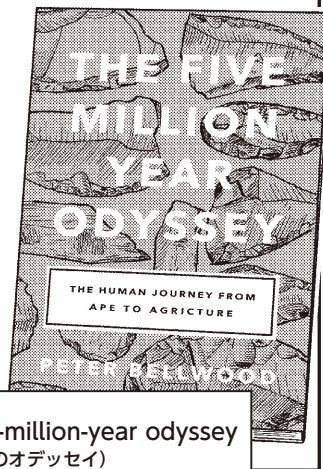
私は20カ国以上での考古学調査に参加してきました
そこで出会った過去や歴史そして今を生きる人々が全ての人々の歴史が重要であることを教えてくれました

私たちはまずホモ・サピエンスという同じ生物種であること認識することが大切です
世界のどこに住んでいても異なる点よりも共通点の方が多いのです

私が常に目指してきたのは私たちの祖先の物語を伝えること

彼らの旅と創意工夫は今なお私たちに大きなインスピレーションを与えています！

2022年
博士は人類がチンパンジーなどの霊長類と共通の祖先から枝分かれてからの500万年の人間の拡散の歴史をつづった『500万年のオデッセイ』を出版しました



The five-million-year odyssey (500万年のオデッセイ)

※ 2024年に日本語版も出版

人類は今環境危機、不平等、紛争といったグローバルな課題に直面しています
しかしこれらはそれぞれの民族が単独で解決すべき問題ではありません

未来の世界は不確実かもしれませんが
しれません

同じ人類としての共通のアイデンティティと責任を持ち

国境、文化、信念を超えて協力することで、はじめて解決策を見つけることができるのです

しかし過去から力を引き出し目的を一つに結ぶなら私たちはどんな課題も乗り越えることができます



監修——小野林太郎

マンガで読むコスモス国際賞

ピーター・ベルウッド博士——人類の旅路をたどって

2026年3月5日発行

発行——公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園 2番 136号

TEL: 06-6915-4500 FAX: 06-6915-4524

URL: <https://www.expo-cosmos.or.jp>

作画——えのきろうちょう

制作協力——京都精華大学 京都国際マンガミュージアム

参考文献——Hung, H.-C. (2017). Professor Peter Bellwood's ongoing journey in archaeology. In P. Piper, H. Matsumura, & D. Bulbeck (Eds.), *New perspectives in Southeast Asian and Pacific prehistory* (pp.1-42). ANU Press. <https://doi.org/10.22459/TA45.03.2017.01>

© Expo'90 Foundation All rights Reserved

Profile



2021年コスモス国際賞受賞者

ピーター・ベルウッド博士

Dr. Peter Bellwood

1943年生まれ。ケンブリッジ大学大学院在籍中の1967年にニュージーランドへ渡り、以降アジア太平洋地域の考古学を専門とする。1980年ケンブリッジ大学で博士号(考古学)取得。2000年オーストラリア国立大学先史学・人類学部教授、2013年名誉教授。



コスモス国際賞

地球上のすべての生命体の相互関係、これらの生命体と地球との相互依存、相互作用に関する研究活動や業績であって、「自然と人間との共生」という理念の形成発展にとくに寄与すると認められるものに授与される。



マンガで読む

コスモス 国際賞

International Cosmos Prize
Dr. Peter Bellwood

